

## 葛根湯について

9月になり、真夏ほどの暑さがなくなって気温の変化とともに体調を崩す人も増えてきます。今回は、風邪薬として市販薬でも売られている葛根湯についてです。

葛根湯は以下の7つの生薬でつくられています。

- ① 葛根(かっこん)……主に熱を下げます。
- ② 大棗(たいそう)……“なつめ”です。体を温め緊張を和らげます。  
興奮した腸の動きをしずめ、腹痛を緩和させます。
- ③ 甘草(かんぞう)……筋肉を和らげます。
- ④ 芍薬(しゃくやく)…… //
- ⑤ 桂皮(けいひ)……発汗作用があります。
- ⑥ 麻黄(まおう)…… //
- ⑦ 生姜(しょうきょう)……“しょうが”です。体を温め新陳代謝を高めます。



葛根湯は、漢方の風邪薬として、比較的体力のある体質の人の、風邪の引きはじめでまだ汗をかいてない時のさむけ、頭痛、発熱に効果があります。

ですから、体力のない人や、風邪の初期から汗がでている人、長引く風邪症状には適しませんので、別の漢方薬をお勧めします。

また、風邪薬としてだけではなく、肩こりや五十肩の初期や、蕁麻疹、婦人科では乳腺炎、耳鼻科では中耳炎や副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎に用いられることもあり、応用範囲が広い漢方薬です。

### <葛根湯を飲むときに気をつけたいこと>

- ・ 麻黄にはエフェドリンという成分が含まれていて、副作用として、動悸、不眠、排尿困難、血圧上昇を引き起こします。特に、前立腺肥大傾向のある男性や、心臓に疾患をお持ちの方、高血圧症の方は注意が必要です。
- ・ 甘草の副作用として、顔や手足のむくみ、尿量減少、脱力感、筋肉痛、こむら返り、手足のしびれやこわばり、食欲不振などがあります。葛根湯に含まれる甘草の量は少ないですが、もしこのような症状が出たらすぐに中止します。また、甘草が入った漢方薬は他にもたくさん(芍薬甘草湯、小青竜湯など)あります。一緒に服用する場合は医師や薬剤師に相談してください。

風邪といったら葛根湯と思われがちですが、市販で購入する際は、ご自分の今の体調や治療中の疾患、併用薬などを考慮して、適切なお薬を選びましょう。

参考文献: 調剤と情報 2011.12、薬局 2012.10、漢方薬の副作用

どこの病院・診療所の処方せんにも対応できます。(お薬によっては時間がかかることがあります)

薬・健康食品・サプリメント等についてのご相談を受け付けています。

あすなろ武川薬局 TEL 0551-26-3800 FAX 0551-26-3810